



令和7年2月26日
第 102 号

四国山地砂防通信

大規模土砂災害を想定した 学習型の訓練を実施！

令和7年2月12日（水）に、香川県さぬき市の長尾公民館において、豪雨による同時多発的な土砂災害を想定した関係機関との合同訓練を四国山地砂防事務所とさぬき市の共催で実施しました。本訓練は、さぬき市が豪雨に襲われた場合に発生する様々な土砂災害（土石流、河道閉塞）に対して、関係機関がとるべき対応及び連携内容の確認により地域防災力の向上を図ることを目的としており、四国地方整備局、四国山地砂防事務所、香川河川国道事務所、香川県さぬき市、香川県、警察署、消防本部、四国山地砂防ボランティア協会（SVA）など、多様な関係機関の担当者に参加頂きました。（参加者67名）

今回の訓練は、土砂災害を想定した「降雨対応行動ステージ」、「災害発生・初動対応ステージ」、「大規模土砂災害詳細対応ステージ」の3ステージを設定し、土砂災害に関する様々な状況を進行役が参加者に質問し、その際の行動対応等を回答頂く「学習型訓練」を採用しました。

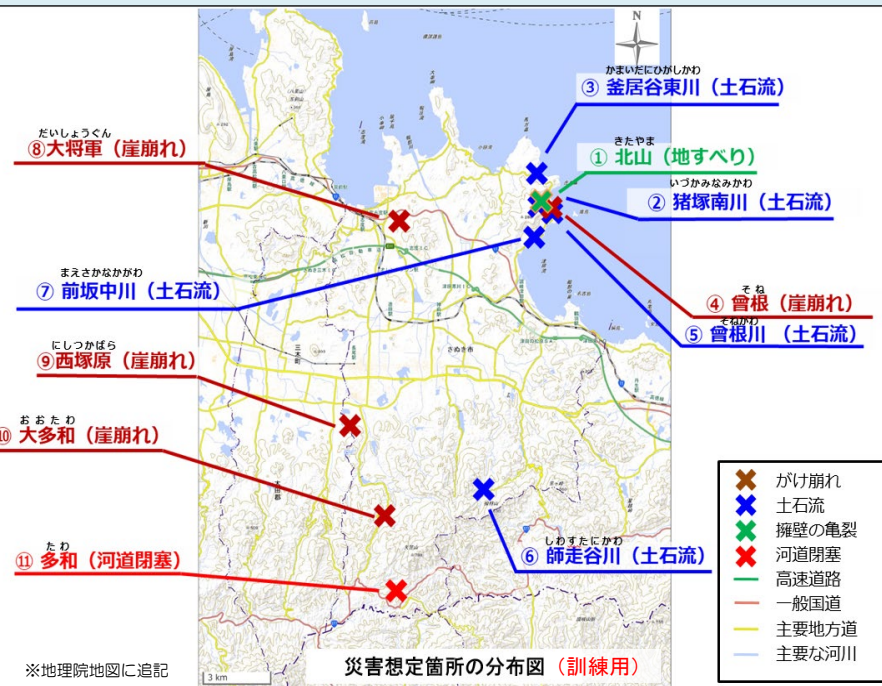
訓練シナリオは、河道閉塞（天然ダム）、がけ崩れ（5箇所）、土石流（4箇所）、道路擁壁の亀裂（1箇所）、の発生を想定し、訓練を通じて、警戒・避難等の対応、土砂災害警戒情報の発令や被害情報の収集・共有、土砂災害防止法に基づく緊急調査や緊急対応等について、各機関の実施内容や連携・調整する内容等を確認・共有することができました。



訓練の実施状況



訓練会場の様子



野村四国山地砂防事務所長



大山さぬき市長

【訓練参加者の意見・感想】

- ・各関係機関との連携、情報共有または情報発信の大切さを再認識した。（さぬき市総務部）
- ・今回の訓練を今後に生かせるように課題を課内で共有したい。（さぬき市危機管理課）
- ・学習型訓練により災害対策本部の移行タイミングなど課題も見えた訓練であった（香川県危機管理課）
- ・訓練を通じて事前の準備の必要性、情報共有の大切さを改めて感じた。（四国地方整備局）
- ・本訓練が終わりではなく、今後も支援体制を含め、この関係を継続したい。（四国山地砂防事務所）
- ・広域で災害が発生した場合、どこまで支援できるか改めて考えさせられた。（香川河川国道事務所）
- ・あらゆる手段を使った複数の情報収集のあり方について考えた方がよい。（SVA）

